

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立狭山中学校

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・対全国比の平均正答率は国語・数学・理科ともに高い結果となっています。
- ・無解答の割合が低く、最後まであきらめずに問題に取り組んでいることがわかりました。
- ・国語では全ての問題において全国平均を上回りました。特に「話すこと・聞くこと」について良好な結果となりました。これは、普段の授業の中で文章を声に出して読み、内容について個人やグループで話し合ったことを発表する活動を取り入れてきたからと考えています。また、「読むこと」についても良好な結果でした。授業の中で根拠や観点を明確にして考えることを意識して授業づくりを行ってきた結果と考えます。
- ・数学においても概ね良好な結果となりました。特に「図形」と「関数」の領域について良好な結果でした。しかし、「データの活用」については課題が残りました。また、「数と式」領域の基礎的な問題において定着に個人差があることがわかりました。
- ・理科は「粒子」を柱とする領域について特に良好な結果でした。これは授業の中で実験や事象に触れる機会を意図的に多く設定し、視覚教材を有効的に活用したからと考えています。しかし、正答数7問以下の生徒が約25%いることから、学力に不安を持つ生徒が一定数いることがわかりました。

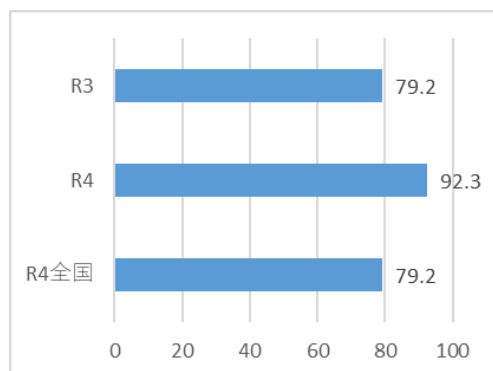
2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率が高く、普段の授業で行っている教科書を声に出して読み、自分の考えを发表或したり他の人の意見を聞いて考えたことを発表する活動の成果が表れていると考えられます。 ・「我が国の言語文化に関する事項」において、漢字の行書の読みやすい書き方についての理解が概ね定着していることがわかりました。これは、書写の授業の中で書いた作品への批評活動をおこなってきた成果だと考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率が高い生徒の中にも「言語の特徴や使い方に関する知識」に課題がみられました。 ・「喜んで」の「喜」を書けなかった生徒が約1割いることから、基本的な既習事項の定着を定期的に確認する必要があります。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・「図形」領域の平均正答率が高く、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を概ね理解していると言えます。 ・昨年度、課題のあった「関数」領域の問題がすべて全国平均を上回り、授業改善の成果が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」に課題が見られます。特に「箱ひげ図から分布の特徴を読み取る」ことや「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことができなかった生徒が全国平均と比べて多く、データを読み取る内容の学習を充実させる必要があります。 ・「自然数を素数の積で表す」ことができなかった生徒が全国平均より多く、基礎基本の定着を進める必要があります。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「エネルギー」を柱とする領域の、「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうか」について概ね理解できていました。 ・「粒子」を柱とする領域において、「液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるか問う問題」の正答率が特に高く、全国平均を上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する」ことに課題が見られました。 ・「日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」問題に課題が見られました。このことから、日常的な現象に対する理解の定着が浅いことがわかりました。

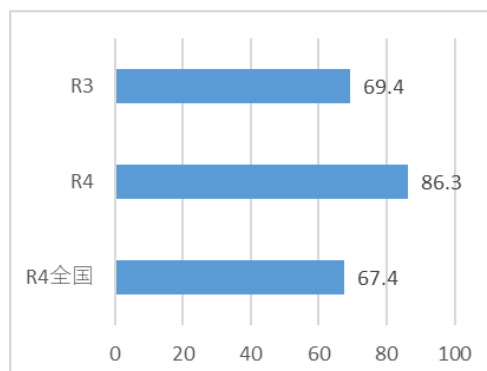
3. 生徒質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

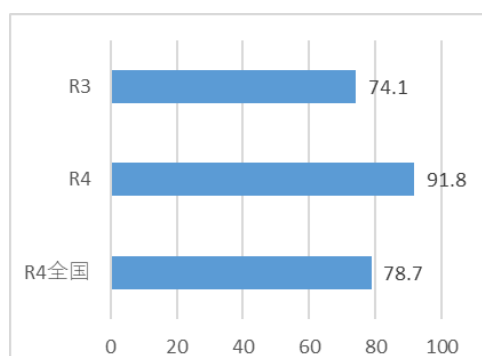
1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか



1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

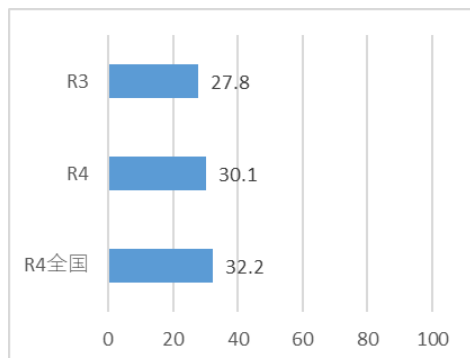


本校では、学力向上部会を中心に、教職員全体で授業改善に取り組んでいます。特にペアワークやグループ活動、調べ学習などを充実させた授業展開や、1人1台端末を活用した課題解決型の学習活動を盛んに取り入れています。それらの取組みが、主体的・対話的な学習ができているという生徒の自己評価につながっていると考えています。

今後も1人1台端末を学習活動だけでなく、委員会活動や学校行事等、さまざまな活動に活かせるよう研究を進めていきます。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか



情報モラルに関わる授業や、外部講師による SNS 講習を行っており、携帯電話やスマートフォンの扱い方について注意喚起を行う機会を設けています。



しかし、多くの生徒たちが節度をもって情報機器を利用できていない現状があります。生徒主体の自律を促す取組みの充実が必要と考えています。

4. 成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

(1) 全教科における言語活動の充実

ペアワークやグループ活動、クラス全体での話し合いや共有、条件付きの作文、根拠を明確にしたレポートや意見交換等を、すべての教科において実践し、学習内容を主体的に学び取らせ、学習の定着を図ります。

また、昨年度からの取組みで効果的であった、音読を活用した授業展開もすべての教科で継続して実践していきます。



(2) 1人1台端末を活用した教育活動を通じた授業力向上

今年度は『「主体的・対話的で深い学び」の実現～1人1台端末を活用した教育活動を通して～』というテーマのもと、教職員の授業力向上をめざしています。授業の中で子どもたちにもどのような力をつけさせたいのか、またどのような方法が最適なのかを常に考え、校内研修や校内研究授業だけでなく、教科や部会ごとの模擬授業、お互いの授業観察を積極的に行います。その際、1人1台端末を新たなツールの主力として考え、具体的にはGoogle Classroom、Google Forms、オクリンクを活用した教育活動を研究していきます。



(3) カリキュラムの工夫改善

学習指導要領に示されているこれからの教育課題を組み入れるために、総合的な学習の時間・特別活動・各教科指導を見直し、教科横断的な学習活動を通して、それぞれの学びが効果的につながるように工夫します。



(4) 基礎的な知識・理解の定着

今回の調査結果から、平均正答率が高い生徒でも漢字の書きや、数学の「数と式」領域の計算問題など、基礎的な学習内容の定着について課題があることがわかりました。また、正答数が少なく、学習に不安を感じている生徒も一定数いることもわかりました。

成果のあった具体物の提示や実験、事象に触れさせることを継続しつつ、各教科の基礎基本となる用語や計算問題等は、こまめに確認し、正確に答えられるようにしていく必要があります。定期テストだけでなく、普段の授業の中で小テストを行い、学習内容の定着を図っていきます。



5. 保護者・生徒のみなさんへ

生徒のみなさんへ

全国学力・学習状況調査の結果は、国語・数学・理科とも大変良好な結果でした。普段の授業の中で文章を声に出して読み、自分の思いや考えをとなりの人や、グループ・クラス全体に伝えることがしっかりできています。そのことがこの結果に結びついています。

また、学習の決まりを守り、クラスみんなで協力して1つのことを最後までやりとげることができる、すばらしさを持っています。これからもみんなで力を合わせ、助け合いながら楽しい学校生活を送ってください。

保護者のみなさんへ

狭山中学校の生徒のみなさんが学習に取り組む姿勢や態度は、多くの内容で成果がみられました。今後も生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することができる環境づくりに取り組んでまいります。

規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけることで、お子様の心身を健康にすることと、学力の向上が期待できます。ご家庭と学校が連携していくことで効果が上がると考えておりますので、どうぞご協力をお願いします。